

| | |
|---------------------|---|
| 研究課題 | 成人微小変化型ネフローゼ症候群に対する短期ステロイド療法の検討 |
| 研究期間 | 2017年12月8日～2017年12月31日 |
| 研究の目的と意義 | <p>成人における微小変化型ネフローゼ症候群は、ステロイド治療に対する反応は良好であるものの、2年間で6割の方が再発する厄介な側面をもっています。この疾患の治療に関する科学的根拠は極めて乏しく、小児での臨床試験の結果や我々内科医がこれまで培った経験をもとに、一般に長期間に及ぶステロイド治療が行われています。長期ステロイド治療に伴う副作用としては、免疫力低下(感染症にかかりやすくなる)、大腿骨頭壊死(股関節の骨が溶ける)、糖尿病、骨粗鬆症(骨が弱くなる)、不眠症、うつ病などが知られています。</p> <p>一方で、小児においては特にステロイド療法に伴う成長障害の懸念から、短期間のステロイド治療について検討されてきました。近年、小児においては短期間のステロイド療法でも長期間のステロイド療法と再発の頻度に大差がないことが明らかにされ、小児科では短期間のステロイド療法が標準治療となりつつあります。</p> <p>当院の腎内科でも患者様と相談のうえで、短期間のステロイド治療を行う方も少しずつ増えてきました。そこでこの度、当院腎内科で治療を受けられた微小変化型ネフローゼ症候群の患者様を対象に、ステロイド治療の期間とその後の再発や副作用の関連などを調査させて頂くことになりました。</p> |
| 研究の方法 | <p>2003年(平成15年)から現在に至るまでの期間内に当院腎内科に入院し、微小変化型ネフローゼ症候群に対するステロイド療法を受けられた患者様を調査対象としています。診療録から必要な情報(血液・尿検査の結果、病理組織検査結果、これまでの治療に関する詳細や、その後の治療経過等)を集め、長期間のステロイド療法と、短期間のステロイド療法の比較、検討を行います。この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者さんへの負担はかかりません。尚、研究のより詳しい内容をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性確保に支障がない範囲で、資料を閲覧していただくことが可能です。希望される場合は、担当研究者にお申し出下さい。</p> |
| 外部への試料・情報の提供 | なし |
| 倫理的配慮 | <p>患者様の個人情報は、匿名化といって個人名を消去し代わりに番号などを付与して処理を行うことで、誰のデータか分からないようにして厳重に守られます。研究結果は、腎臓の病気に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。その際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先にご連絡下さい。その場合、データ収集や公表はいたしません。除外のお申し出により不利益を被ることは一切ありません。</p> |
| 研究組織 研究責任者 | <p>藤田保健衛生大学医学部腎内科学 (〒470-1192 豊明市杣掛町田楽ケ窪1番地98) 藤田保健衛生大学医学部腎内科学 教授 湯澤由紀夫</p> |
| 問合せ先 TEL 担当医師 | <p>0562-93-9245 (月～金 9:00～17:00) 藤田保健衛生大学医学部腎内科学医局 助教 林 宏樹、助教 小林由典</p> |